

官吏の俸給

○板垣伯の近状黨員の憂慮

の徳義は衣食足り生活を爲さしめなれど難を責むる現在我の體にして願少の私は今の世界より次第に斯る風は恰も彼等を誘ひるものにして決して世間には種々の財會銀行などは其眞本の増額を謀るも別に異議はある可と示すものなり政府のものは此國力微ひ増資を企ても事女と認めて敢て其決

○河野代議士に對する示威運動
五區撰舉者の一郎は同區撰出の自由黨代

三日午後二時
有志者は七條
を祝したり夫
の慶事堂に赴
會時休憩の上
したれど政治
のみを談
して京都の地
運輸の便否に
して、午後五時
の趣旨を以
て、後十一時過
安神宮に參拜
も京都の紳士
議士河野岩吉
良に赴き夫れ

抑嵐

三
回
論

伯は去る二十三日午後二時
に同地の實業有志者は七條
に於て議決したれば不日臨時
の開催を祝した。夫れどもよし
に示威運動を試みんと意氣込
みづゝ配属する筈なりと

三
一
九
九

○京都の半大阪より停車場に出されより伯はり先づ京都上に關するみどりは商業より營業上の美術的て一時間餘後八時より應を受け餘會したり此會社、銀行紳商のみなし五二會品所を始め難より勢州に河野代五區擇舉者川より西洞賣より北野教育を陸軍氏が二箇年せずして依に交渉中な十萬圓となれ召募に「此度の二ふる夜更にから悲々のね株主總會を決定せば甚う。誠にありますでムいまで親類のつゝくとて仕事ひも食はず七十二に決つたもうう。誠に